

「一人ひとりに合った学び実践校（仮称）」検討会議（第3回）：資料1

個人と社会の
ウェルビーイングの
実現

「一人ひとりに合った学び実践校（仮称）」 第3回会議資料

2024年9月26日（木）
長野県教育委員会事務局

第2回会議（9/4）までの議論を整理すると・・・

①山頂（目指す学校像：県が旗を掲げる）

（前回の事務局案）

常に子どもを主語とし、「好き」や「楽しい」、「なぜ」を追求するために、
子どもが自ら選択でき、子どもが自己実現できる学校
～これを実現するため、学校の仕組みの変革にチャレンジ～

県教委は、理想の旗を掲げ続ける必要

その上で、各学校は、取り組む内容自体が目的化することがないようにするために、
自校の学校像をきちんと掲げた上で取り組んでいただく必要がある

④山の名称 願いが正しく 伝わる名前を！

これまでの議論を
踏まえて再整理

②ルート（要件：現場に任せる）

（前回の事務局案）

- A) 「学校の仕組み変革」に属する取組は、必ず行う
- B) R7年度の学校準備段階から、必ず地域と子どもを話し合いに加える
- C) これまでの経緯や地域の特色を踏まえ、目指す学校像へのアプローチを提案する
- D) 実施プロセスと成果をまとめ、学校公開やwebサイト等を通じて広く共有する
- E) 学校公開は必ず行い、その際の案内役は、教員ではなく地域や子どもが担うこととする

**現場視点での伝わり易さ、
粒度を揃える、
方法論は縛らない**
等の配慮

③装備（県の支援）

（前回の事務局案）

- A「人材支援」
- B「伴走支援」
- C「情報整理／発信・コミュニケーション環境の整備」

これに加え、
研修や視察の機会創出も必要

【直近の動き】主幹指導主事会議（9/12）での意見交換

7～8月は、市町村教育委員会と意見交換してきたが、
9月は、10月からの募集開始（見込み）を見据え、
小中学校校長や教育事務所の指導主事等、より現場に近い方々から意見を伺った。

学校ごとにやりたいことがあると思われるため、あまり県の事業としての我を出すと引かれる恐れ。

市町村教委や地域との連携となると、募集期間では調整が間に合わない可能性があり心配。

例えば、「市内のうち同一校区内の2小・1中・市教委」みたいなサイズ感も1つあるのかなと思った。また、以前の市町村教委との懇談会で、小規模自治体から「うちでも応募できるのか？」という意見も出ていた。
イメージを明確化させるためにパターン例示があってもよいのでは。

加配ありきではない。重要なのは、やる気のある教員をその学校に集められるか。
例えば、思い切って新卒者を集めるとか、希望に燃えた中堅層を一定数集めるとか。

募集の開始に向けて、改めて基本に立ち戻り、重要な要素を整理

いま、何が
起きている？

変化の激しい現代、子どもも多様化。求められることも多様化。教育課題は山積。
これに対応していくには、学校は今のやり方のままでは限界。

どうあるべき？

多様な社会で自分らしく生きていける人に、全ての子どもがなってほしい。
そのために、「好き」「楽しい」「なぜ」を追求できる学校でありたい。

そのために
何をすべき？

「子どもが自ら選択できる。子どもが自己実現できる学校を創る。
そのための学校の仕組みの改革にチャレンジ。

一斉一律一辺倒な教育からの転換 # 楽しい学校。明日も行きたいなと思う学校。（子どもも、先生も）

どうやって？

現場の肌感覚を信じ、任せる「信州教育」を活かし、今に合ったものに変える。

地域独自性の高さ、現場の裁量性の高さを最大活用 # 今のルール・リソースの中で最大限を追求

上記を念頭に、情報を整理し、応募要項（案）を作成した。

実践校の募集について（概要） ※要項（案）は、資料2を参照

共通の
理念

常に子どもを主語とし、「好き」や「楽しい」、「なぜ」を追求するために、
子どもが自ら選択でき、子どもが自己実現できる学校
～これを実現するため、学校の仕組みの変革にチャレンジ～

なぜ取り組むのか、ストーリーが分かるように。
(手段が目的化しないよう)

提案
していただく
こと

① 目指す学校像

② 何に、どのように取り組むのか

取組のプロセスが分かるように。

③ R9年度末時点で実現していきたい学校の姿

実践校として
取り組むこと
(要件)

- 「学校の仕組み変革」（詳細はP8のとおり）に取り組む。
- 学校の準備から運営段階に至るまで、子ども、保護者、地域との意見交換等を通して、一緒に学校づくりに取り組む。
- 取組の経過をオープンにするとともに、定期的に学校公開を行う。

支援期間は「概ね3年」を予定
R7年度当初歳出予算に
計上されない場合には、
一部支援内容が変わる可能性

県の
支援

- 県教育委員会に設置予定の「学校改革支援センター（仮称）」による伴走支援
- 実践校が所在する市町村（学校組合）教育委員会で本業務に従事する教員を配置
- 実践校の教員向け研修の企画・実施及び県外視察の旅費を支出

提案書様式と、評価の際に見たいポイント

※様式（案）は、資料3を参照

①どのような学校像を目指すのか、なぜそれに取り組むのかを書いていただく。

（評価ポイント）

- ・ 取組自体が目的化しないよう、明確なビジョンが描かれているか。
- ・ 共通理念に基づきビジョンが描かれているか。
- ・ その地域・学校の特色や現状抱えている課題、これまでの取組経緯等の現状を踏まえた上で、「なぜ今これをやる必要があるのか」が語られているか。

(様式1) 提案書【案】

〇〇教育委員会 〇〇〇〇
〇〇〇学校長 〇〇〇〇
(公 印 省 略)

「一人ひとりに合った学び実践校（仮称）」提案書

1 目指す学校像
どのような学校像を目指すのか、なぜそれに取り組むのかについて、簡潔に記載してください。
(伴走支援の参考とするため、「なぜ今これに取り組むのか」のストーリーが分かるよう記載してください)

2 何に、どのように取り組むのか
目指す学校像の実現に向けて行う具体的な取組と、それをどのように行うのかについて、応募要項2（2）ア～ウに示す各項目を踏まえて記載してください。
<記載の観点例>
・ 保護者や地域等どのように連携していくか ・ 実施に当たっての壁と、その乗り越え方 等

3 令和9年度末時点で実現していたい学校の姿
目指す学校像に向けて、指定3年目（学校運営2年目、令和9年度）完了時点で実現していたい学校の姿について、記載してください。

4 備考欄
その他、活用を検討している制度（特例校制度の活用）等記載したいことがあれば、自由に記載してください。

担当者名 () Mail () Tel ()

※各項目の枠のサイズは、適宜変更いただいて構いません。
※別添資料等は添付せず、2ページまでに収めて作成してください。

②何に、どのように取り組むのか、実践校の要件を踏まえて書いていただく。

（評価ポイント）

- ・ 具体的に取り組む内容が、3要件を踏まえて想定されているか
- ・ どのようなプロセスで取り組んでいくかが提案されているか。
- ・ 伴走支援により取組効果が増幅される可能性があるか。
- ・ 取組プロセスを横展開することにより、多くの学校に成果を拡げられる可能性があるか。

③目指す学校像を見据えながら、支援の区切りとして想定するR9年度末時点でどうなっていたかを書いていただく。

（評価ポイント）

- ・ 手前のゴールとして、3年後の姿を具体的に描けているか。

【参考】「学校の仕組み変革」に属する取組の例

※【学校の仕組み変革】に挑戦しつつ、他の分類の取組も適宜組み合わせながら進めてください。

※ここに記載の4つの分類全てに必ず取り組まなければならないということではありません。

※各分類内に例示している取組を全て行わなければならないということではありません。趣旨が合っていれば、例示以外の取組でも構いません。

【A.学校の仕組み変革】

学校内にある様々な慣習や従来の方針を、
今の時代に合わせて柔軟に見直す取組

<例>

- ・子どもたち自身が学校のルールを作る・決める
- ・幼保（やまほいく等）と小学校の連携
- ・異年齢での学級、学習の実践
- ・時間割・宿題・テスト・通知表等の在り方を変える
- ・校務精選等の働き方改革
- ・特例校制度の活用（教育課程特例校、授業時数特例校） 等

【B.学び・授業の改革】

従来の価値観に囚われない学び方等を
柔軟に取り入れる取組

<例>

- ・探究を核とした学びの推進
- ・多様な発達特性（A D H D）に応じた学びの研究
- ・自由進度学習、P B L、教科横断的な学び等、新たな学びの手法の効果的な導入
- ・日々の教科学習における学習内容・支援の改善 等

「学校の仕組み変革」には
必ず取り組んでいただきつつ、
他の取組と組み合わせて
進めてほしい。

【C.子どもへの対応】

不登校、別室登校等の子どもにとっての学びや
学校生活を保障するための取組

<例>

- ・多様な子ども（多様な子ども、不登校の子ども等）に合った学びの保障
- ・多様な子どもの意見を学校・学級運営に反映
- ・アセスメントの活用による児童生徒の理解 等

【D.環境・ツールの最大活用】

地域資源やI C Tツールを最大限活用する取組

<例>

- ・山間小規模校にしかできない学びの提供
- ・地域の文化や産業を教材にした学び
- ・学校間の遠隔授業の実践
- ・1人1台端末の最大活用・モデル化
- ・学習ログ等のデータ利活用 等

【参考】学校改革支援センター（仮称）の支援イメージ

学校改革支援センター（チーム）



教育長

ミッション：学校改革を目指す学校・校長・教委に伴走し、その実現をサポートする



リーダー（庁内）

- チームを統括
- ニーズの掘り起こし（主幹指導主事と連携）
- アドバイザーと連絡調整
- 必要に応じ学校訪問



エリア担当
（教育事務所）

- 1 指導主事当たり 4～5 校を担当。
1 校につき 1 回くらいの訪問
- 教科横断的学習、異年齢指導、自由進度学習、ICT を活用した学習などを研究
- 教育課程編成に専門的知見



研究担当
（総合教育センター）

- 過去の実践、先進的な実践などの研究調査及び視察
- 指導主事の学校支援のための情報源となる
- 必要に応じて指導主事と学校へ訪問



アドバイザー

- 指導主事の相談を受け、アドバイス
- チーム会議に出席
- 必要に応じ学校訪問

- ・ 外部人材活用促進
- ・ 「信州やまほいく」の小学校低学年への接続
- ・ 柔軟な教育課程づくり



市町村配置の指導主事

（「一人ひとりに合った学び実践校（仮称）」に配置の加配教員）

（R7から配置を検討）

- ・ 指導主事会議に出席
- ・ 「学校改革支援チーム」と情報共有

実践校のネーミングについて



- ✓学校が楽しく、毎日行きたくなるような雰囲気を伝えるイメージ
 - ✓未来を見据えた、ポジティブで前向きなイメージ
 - ✓今日の学びが明日へつながる、成長や前進を感じさせるイメージ
- 使用例)
「▲▲市立○○○小学校を(決定したネーミング案)に指定します。」
という使い方のイメージ

(+ご意見)
パッと見で伝わる
分かり易さが必要では？

子ども一人ひとりが自己実現できる実践校



ここに置くネーミング案

- **ウェルビーイング実践校**
- 未来をつくる学校
- 明日につながる学校
- こどもワクワク学校
- こども☆キラリ学校 (略:こどキラ)
- 信州エンジョイスクール (略:SES)
- 未来の学校プロジェクト
- 信州型楽校
- 夢拡がる、心地よい学校

- **こどもキラキラ学校**
- みらいつなぐ学校
- 明日も行きたくなる学校 (略:あすいく)
- こどもファースト学校
- 夢叶え学校
- 信州スマイルスクール (略:SSS)
- 信州ポテンシャルマックススクール
- 「好き・楽しい・なぜ」とことん校
- 夢グツグツ熟成学校

以上を踏まえ、第3回会議で議論したい点

1. 実践校の応募要項及び様式（案）について

これまでの検討会議や関係者との意見交換を経て、真に大事にしたいことを整理し、要項及び様式（案）として作成したので、学校や市町村教委にご提案いただく内容や応募ルール設定等について、ご意見をいただきたい。

2. ネーミングについて

「個別最適な学びに偏った印象を与えかねない」という懸念は、応募開始までに払拭したいため、これまでの議論を基に、相応しいと考える事務局案を再び示すので、ご意見をいただきたい。ただし、現場の肌感覚を大事にするというコンセプトの元、代替案にも（仮称）をつけて応募してもよいと考えている。

子どもも教員も地域も、学校を通じてしあわせを実感できるようにしたい。
そのために、子どもに近いところに、自由と裁量を。

こんなことを考えていますが、この実現のためには、
これまで各地域で培われてきた信州教育を活かしながら、
今の時代に合ったものに変えていく必要があります。

一人ひとりに合った学びを、ともに創っていきましょう。